

11月25日（金）

「11月の理科博士」



南六郷小学校では、「理科博士」という取組を行っています。理科博士とは、教員が科学に関するおもしろい実験をしたり、生物について紹介をしたりする動画を撮影し、朝学習の時間に放送する取組です。今月は3年生の電気の学習に関する実験を放送しました。3年生では、乾電池と豆電球を1つの輪になるように導線をつなぐと明かりがつく（回路にする）ということを学習します。そこで今回は、「2mの導線で回路をつくっても明かりがつくのか！」「ホール2周分の長さで明かりがつくか！」「校舎中をめぐらせても1つの輪になっていけば明かりがつくのだろうか！」といった実験を行いました。長い導線を使っただけの実験は授業でやったことがなく、どうなるのか頭をひねる子どもたち。「導線が長いと電気が届かないのではないかな。」「家の電気も電線を通ってくるわけだから長くても明かりはつくはずだ！」などときまざまな予想を立てていました。実験の結果は、電池の数を増やせば、どれだけ導線が長くても明かりがつけました！

次回の放送は12月です。理科博士を通して、科学に興味をもつ子どもたちが増えてほしいです。